

備えがあるから
憂いなし!!



Magazine style paper Toward Disaster

防災のある暮らし

Take Free!! ¥0

05

VOL.

2015 SUMMER

INDEX

1. 東京五輪こそ日本防災メルクマーク確立のチャンス
— 京都大学防災研究所 林春男氏
2. 地域防災倉庫「レスQボックス」
— 備八ムロン・テック
3. 渋谷・鹿児島おはら祭に見るリスク対策レポート
4. 埼玉県警備業協会の取り組み
5. 防災現場で働く女性シリーズ

since 2013

防災最前線
interview

2020年・東京五輪こそ日本の 防災メルクマーク確立のチャンス

取材協力／京都大学防災研究所

「違

いは、いつどこで起きるかが
決まっているか否か」
イベント運営と災害対応は
よく似ている

「オリンピックのような大規模イベントの準備・運営と、天災等の災害への対応。両者は、本質的には同じことだと考えたらいと思うんです」。そんな、ちよつと驚くような言葉から取材はスタートした。

京都大学防災研究所で、社会心理学に基づいた災害時の人間行動や防災対策について研究している林春男教授は、TIEEMS(国際危機管理学会)日本支部の代表理事も務めている。

国際的に関心を集めるオリンピックと災害などの危機に、林教授ははたしてどのような共通性を見ているのだろうか。

「ビッグイベントの運営と災害対応、このふたつの最大の違い、それは

京都大学防災研究所

Haruo Hayashi
林春男 教授

「いつ、どこで、が、あらかじめ決まっているかないか、ということとです」。

しかしそれ以外を見比べてみれば、これらはどちらもプロジェクト業務だと、とらえることができる。

なぜなら、通常業務の範疇には収まらない事態に挑むという出発点があり、終着点があり、その間なんらか

の成果(パフォーマンス)が求められ、かつ組織は臨時であるという点で、両者に共通しているからです」と林教授。

一見極論のように聞こえるかもしれないが、オリンピックの招致運動や開催が決まってから準備、さらには安全に開催してフィナーレを迎え、その成果を振り返る、といった一連の流れは、普通なら経験しないイレギュラー

な業務の連続だ。

そしていかに常日頃からの危機管理が大切とはいっても、いざ災害が起きてしまったら、その後の復旧・復興に向けた活動については、かなりの割合で突発的な判断・対応が求められる。

要するに、恒常的な組織では対応しきれない事態に、大人数を寄せ集めて立ち向かわなければいけないという点が、よく似ているということなのだ。

「こうした大規模で非日常的なミッションに対応しうる組織を、平時からフルセットで準備しておくというのは不可能ですね。かといって、平時からある組織だけで、このような非常事態に対応しきれないはずありません。

ということとは、臨時にたくさんの人を特定の場所に結集させ、組織立ててパフォーマンスを……しかもこれまでもあまり経験したことがないようなパフォーマンスをさせざるをえないと。これがいかに大変なことかは想像に難くないでしょう」。

日 時と場所が決まっていれば
「火事場の馬鹿力」が
使えるけれど……

本質的に共通点が多いビッグイベ

ントと災害対応。しかし日時が決まっていなことから派生して、とても大きな問題が生じると林教授は語る。

「災害対応というものは、いつ起きるか分からないがゆえに、平時時にはコストの必要性が認められにくかったり、担当人員を確保できなかったりするものです。要は面倒くささと当座の優先順位の低さによって、つい先送りされがちなものなのです。

しかも、いざ本気で取り組もうとしても、前述のような理由をあげて水を差されてしまうことが多い。こうした理由で、災害対応というのは計画的に進めるのが非常に難しい事業なのです。

一方、イベントとはいえば、時間と場所が決まっている以上、とにかくにがなんでもやり遂げなければならぬ。多少無理があってもみんなで頑張つてなしとげ、成果をあげることもできるわけです」。

もつとストレートにいうならば、イベントでなら使える火事場の馬鹿力的なパワーが、災害対応のためには使にくいんです、と苦笑する表情に、長年、日本の災害対応能力向上を目指して活動してきた林教授の苦勞がしのばれるようだ。

2 020年まで、あと5年
その間に「日本の災害対応」
を標準化したい

「しかしながら災害対応を研究する者としては、2020年のオリンピック・パラリンピックは絶好のチャンスになるのでは、と考えています。

開催地こそ東京ですが、その準備・運営にあたっては、全国から大規模な応援体制で動員がされますよね。

いわば寄せ集めの臨時組織である彼らの行動基盤を定めるためには、災害・テロなどさまざまな危機を想定し、いかに対応するかという共通のルールがなくてははいけません。

これはオリンピックまでに絶対につくりあげなければいけないルールであり、先延ばしは許されません。したがって、このルールがまとまれば、それが今後の全国レベルの災害対応の一定の目安（＝災害対応の標準化）になりうるだろう、と私は考えています。

これまでは予算や労力といったコストパフォーマンスを重視するあまり、先送りされがちだった災害対応に、ビッグイベントのための踏ん張りでブーストを加え、なおかつこれがあったからオリンピック・パラリンピックを無事に乗り切ることができた！という成果

ポイントを示すこともできるのです」

招致こそ成功したものの、開催会場の問題等が連日報道されている東京オリンピック。しかし、たとえばどんな課題・問題があるうとも、世界中から多くの人々が結集するこのビッグイベントが開催されるまで、あと5年しかないのだ。

長いようで短いこの期間をフル活用して、日本の災害対策の標準化を目指す。それが林教授の狙いなのだ。

多 くの災害を経験しながら
対応の質が向上しないのは
「ふりかえり」が足りないから

なかなか災害対応の標準化が進まないことにもどかしさを感じつつも、ビッグイベントを上手く利用すれば……と、ポジティブな意見を述べてくださった林教授。

その反面、懸念している課題もあるという。

「災害大国・日本にとって、災害対応が必要かつ重要な課題であることは誰もが分かっていますし、実際我々は、他の国よりもはるかに多くの災害を体験しているはずですよ。

それでもなかなか標準化や、質の向上が進まなかった理由をあげるとすれば、それは「ふりかえり」が足り

ないからだろうと私は考えています。最初にも述べたとおり、災害対応はプロジェクト業務であり、その中枢を担う災害対策本部は臨時的な組織です。

これに対してたとえば水道局だったらどうでしょう。地震で水道設備が破損したのを、全国から応援が入って3日で復旧工事をしたというような成果を上げたら、水道局は後に、自分たちがどんなことをしたか、現場に臨んだ局員がどう感じたか、といったことをまとめたレポートなどをつくるのではないのでしょうか。

しかし、実はそういうふりかえりができるのは、彼らの通常業務に作業的・コスト的・時間的に明快な指針があるからです。それらに照らし合わせれば、どこがイレギュラーだったのかを整理し、後に伝えることもできる。

ところが災害対策本部では、なにもかもが非常事態で、通常業務というものはありません。降りかかってくる業務をこなすことに懸命な彼らには、自らの取り組みをふりかえる暇などありませんし、良し悪しの判断基準もない。

このため、後から参考にできるようなまとまったレポートなどが少なく、貴重な経験が承継されていかない。結果として、災害対応の中枢を担う災害対策本部の機能が、あま

り進化していない、という事態に陥るわけです。

私はこれこそが、日本の災害対応のレベルアップを妨げる、最大の原因ではと思っています」。

この課題をクリアすべく、林教授が提唱しているのが「After Action Review（以下AAR）」の活用だ。

AARは1980年代にアメリカ合衆国陸軍が始めた取り組みで、ひとつのオペレーションが終了した後、参加した多くの人々の声から①自分たちはなにをしたのか、②本当はなにをすべきだったのかに関するデータを集め、③理想と現実の違いがあつたのなら、なぜその差異が生じたしまったのか、④どうすれば改善できるのかを検証し、業務改善に活かそうという取り組みだ。

米軍は近年継続的に、中東をはじめとする世界各地に軍隊を派遣し続けている。異なる文化・異なる正義を掲げるエリアに赴く兵士たちを、いかに守るかを考える時、1980年代から蓄積されてきたAARは貴重なデータとなっているという。



AAR で検証すること

- ① なにをしたか
- ② 本当はなにをすべきだったのか
- ③ 理想と現実の差異と、その理由
- ④ どうすれば改善できるか

AAR によって得られる成果

- ① 集めたデータを客観的・第三者的に評価・検証することで「実際に何が何故起こったか」を理解しやすくなる。
- ② 精度の高い事象認識を基に、計画を再検討しやすくなる。
- ③ 近い状況・環境で、同様のミスを防ぐための教訓となる。

日本の防災対応計画標準化のためにAARの技術を活かそう

米軍の持つAARのノウハウが、災害対応においても有効だと認められるようになったのは、2005年に2500人超の死者・行方不明者を出したハリケーン・カトリナ被害がきっかけだった。

巨大台風に政府対応のまずさが加わって、アメリカの天災史上最悪の被害と評されるハリケーン・カ

トリナ以降、アメリカでは災害のたびに「After Action Review」を作成し、次なる災害への備えとするようになったのだ。

「阪神・淡路大震災でも、東日本大震災でもそうだったように、いざ大規模災害が起これば現地には全国から支援が入りますよね。だから、自分たちの町では災害なんかま

ず起きないから必要ない、という話は成立しません。とはいっても、自ら経験したことがない災害がどんなもので、どう対応すべきかという情報を共有するのは非常に難しい。



蓄積されていけば、このデータが災害対応のガイドラインになります。

日本の防災計画の質を高め、全国的な標準化を進めるために、AARのノウハウは大いに有効なのです。

AARの策定推進に期待をかける林教授だが、ひとつ重要なポイントがあると訴える。

「我が国の災害対策基本法には、災害対応の一義的責任は市町村にある」と書かれています。ところが現実を見てください。

日本には1800の市町村があり、どこにも必ず災害担当者が存在しますが、実際に災害に直面し、対応したことがある市町村が年にくっあることか。

一万、県単位となれば、年に何度かはなにかしら経験するでしょうし、国全体でとなればさらに多い。その分、担当者の経験値は上がっていく。

要するに市町村は、名目上は大きな責任を負わされているけれど、経験値を積む機会がとて少ないという矛盾があるのです。

従って、AARの策定を推奨するにしても、その舵取りはやはり国がすべきだろうというのが、私の考えです。決して中央集権で強権的にやれ、といっているわけではありませんが、標準化（＝スタンダードイゼーション）というのはより大きなスケールで、多くのケースを参考につくりあげなければならぬ、ということです。

事に応じて、まっさきに事態に対応しなければいけないのは市町村であり県だが、そのための指針策定については、やはり国が主導すべきだと、林教授は語る。

「市町村・県・国。それぞれのレベルで果たすべき責任・とるべき行動は異なりますが、だからといってバラバラに考えていても無駄だし、無意味です。我々が目指している災害対応の標準化は、各階層をしつかりとつなぐ基準をつくろう、ということなのです」。

被

「被害からどう立ち直るかを具体的に考えることがさらに大事」

東日本大震災の報道の中で、予想を超えたというフレーズが乱れ飛んだことは記憶に新しい。

「しかし実のところこの言葉は、1995年の阪神・淡路大震災でも多用されていました。

世界屈指の災害大国である日本では、過去の多くの経験則や、経済・文化・インフラの発展を踏まえて、あらかじめ備えていけば災害の被害は軽減していける、と考えてきたのです。

ところが現実にはさらに厳しかった。ふたつの大震災を踏まえて見直された南海トラフ地震の被害想定を例に挙げると、なんと死者32万人と予測されています。

こんな激甚な被害に、市町村単位で対応なんかできるはずがないし、予防云々でどうにかなるはずもない。

この恐るべき数字の先には、被害者の身元をどう確認するのか、どうやって葬儀をとり行うのか、といった膨大な業務が連なっていくわけですから。

残念ながら、どれほど予防策を考えたとしても、大規模災害では必ず被害が発生してしまいます。その上で、被害からどう立ち直らせるかというその先の策がないというのは話にならない」と、自身も阪神・淡路大震災後の復興に取り組んできた林教授の言葉には、非常な重みとリアリティがある。

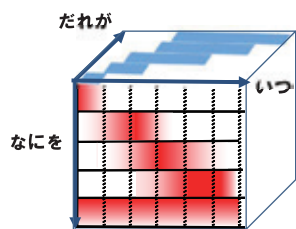
東日本大震災の発生直後、壊滅的な被害を受けたエリアでは、市町村に被害を報告することもできない状況に陥った。

それほどの被害に遭っているというのに、市町村→県→国という流れで構築された現状のシステムでは、報告がない＝被害がないという認識になるため、県や国の初動に遅れが出てしまったというエピソードがあった。

「今ある災害対応と現実には、このように大きな乖離があります。

命は大事です。しかし、命を守るだけが防災ではない。災害は起きてしまうものなのだから、そこからいかに被災者の暮らしを立て直すかという、全体感と具体性のある災害対応・防災計画をつくりあげていかなくてはいけません」と語る林教授は、共同研究者とともに、災害が起きたらなにをすべきか、どんな業務が発生するかをモデル化している。

回復力の研究



資料出典: 危機管理特論講義資料より抜粋・転載

災害対応過程のモデル化(何を・いつ)

時間経過	1Hr	10Hrs	10 ² Hrs	10 ³ Hrs	10 ⁴ Hrs	10 ⁵ Hrs
失見当期						
いのちを守る						
社会のフローを復旧する						
社会のストックを再建する						
プランニング/ロジスティクス						

多様な主体の参画による防災の推進



いまだ国としての災害対応が標準化されていない今、まっさきに被災地と直面し、実務を担うことになる市町村の防災担当者には、ぜひ参考にしてほしいモデルだ。

入 り乱れる情報の中から
いかに角度の高い情報を
集め共有していくか

林教授は阪神・淡路大震災直後から、多くの国・県・自治体とともに防災対策を考へつづけてきた。その経験の中で、近年もっとも大きな変化は、情報量の膨大化だという。

「パソコンや携帯電話の普及によって、災害発生時には非常に多くの情報が交錯することになりました。

情報量が増えるというのは「見にくい」ことなのですが、実は混乱した状況下でSNSなどに飛び交うのは、精度や有用性の低い情報(インフォメーション)にすぎません。その中から、重要性の高い情報(インテリジェンス)を拾い上げようとしている側にとつては、むしろノイズといつてもいいくらいです。

災害対応や被災地支援のために実際に行動するためには、今、現地では何が起きているのか、なにが起きたのかという状況認識を共有しなければいけませんから、溢れる情報の中から、いかに信頼度の高い情報をすくいあげ、担当各所で共有するかというのは、喫緊の課題といえるでしょうね」。

抑止力×回復力=総合的な防災力。

レジリエンスをもった「しなやかな社会」を創造せよ

林 教授が参加する、京大・NTTレジリエンス共同研究グループでは、これまでに「しなやかな社会の創造」と、「しなやかな社会への警告」という2冊の書籍を刊行している。

2009年に発行された「創造」は、地震・アウトブレイク・ゲリラ豪雨・サイバーテロといった近年直視せざるにはられないさまざまな危機と向き合い、いかに事業を継続し、サステナブルな社会を実現するかがテーマ。冒頭から、東日本大震災や帰宅困難者問題の発生を予言するような警告がなされており、同グループの研究・予測の精度に引き込まれる。

そして東日本大震災の発生を受け、2012年に緊急発行された「試練」は、日本社会にとっての3.11の総括(ふりかえり)と、しなやかな社会実現に向けたクラウドの活用法を中心に構成されている。

ますます高まる首都直下型地震や、南海トラフ地震(西日本大震災)などの危機下で、いかに組織を守るかというヒントが凝縮された必読の書といえるだろう。

同グループでは現在、東日本大震災発生5周年となる2016年の春発行を目指して、第3弾となる「しなやかな社会の実現(仮)」の発行準備を進行中。先見性と警句に満ちた3冊目の刊行に、期待が高まる。



こうした情報収集や発信・共有のしくみについても、やはり国家的な枠組みで考え、つくりあげなくては浸透しないだろうと、林教授。

「時代の変化・進化に応じて、かつては難しかった課題があつたりと解決することもあるし、新たな問題の種類になってしまうこともある。

やれコストがかかるだの、やれ経験値がないだのと先送りしている場合ではないのです」。

今こそ本気で日本の災害対応の標準化を、と願う教授は、5年後に迫る東京オリンピック・パラリンピックを、大きなチャンスと見据えている。

緊急時 街になじむ地域防災倉庫「レスQボックス」開発秘話



(株)ハムロン・テック

防水検査器メーカーが なぜ、防災倉庫の開発を？

東京都西多摩郡瑞穂町に本社工場を構える株式会社ハムロン・テックは、スマートフォン用防水検査器の製造販売にかけては国内ナンバーワンシェアを誇る、知る人ぞ知る実力派ものづくり企業だ。

同社が開発した独自の歪検出方式ウォータープルーフチェッカーは、携帯や時計などの精密機器製造各社に採用され、業界のスタンダード検査器となっている。

さて、そんなハムロン・テックが昨年リリースした、まったく本業とは別分野の新製品が『レスQボックス』と名付けられた小型防災倉庫である。

これまで防水検査一筋だったハムロン・テックが、なぜいま防災分野へ？レスQボックスにはどんな高度な技術が活かされているのだろうか？

その謎を解くため、同社を訪れた取材陣を迎えてくれたのは、相原章彦代表取締役社長



▲相原社長

だった。

「レスQボックスの開発は、2013年に迎えた当社の創業50周年記念プロジェクトのひとつとして始まりました。

当社は社名からも分かる通り羽村市で創業し、その後福生に移り、さらに4年前にここ瑞穂町に移転してきました。3つの町・地域には心から感謝しているのですが、本業である防水検査機器の製造というのは、なにしろ専門性が高い事業ですから、近隣地域にはお取引先もなければ提携会社もない。そんな訳で、地域との関わりやつながりを持つことがないまま、50年間き

てしまいました。

ですから企画立ち上げにあたっては、なにか地域に貢献できるものをというテーマであれこれ検討し、最終的に防災倉庫という形に落ち着いたので、特に独自技術を活かして開発しようと思いついていたというわけではないんです」と相原社長。

開発のきっかけは実に飄々としたものだったが、いざプロジェクトが立ち上がってからは、現在の形になるまで、本気の試行錯誤を重ねてきたという。

「いざー」という時 だけでなく いつも身近にある 防災倉庫

「当社は2011年に本工場を作ったのですが、その際にエコな工場を目指して太陽光発電や全灯LED照明を導入しました。折しも2011年は東日本大震災があった年。防災意識が高まり、エネルギーをできるだけ自社でまかなう重要性などを改めて実感する中で、そうだ！太陽光パネルをつけた防災倉庫はどうだろう、という発想が生



▲公園に設置されたレスQボックス

まれました。

自力で電力供給できる倉庫なら、停電の最中でもラジオやTVの放送ができる。小型倉庫ですから、中に収納できる物量には限りがあります。その代わりに、ここに来れば情報が手に入る。いま一体なにが起きているかの把握は、その後の避難や救助活動にも絶対に役立つな、と」（相原社長）。

一般に防災倉庫というと、公共施設や学校などに設置されているものの、平時はそこにあることさえ忘れられがちなものだ。

しかし「レスQボックス」は、もともと日常的にそばにある防災&情報拠点をめざしている。

設置場所は、街の人々がよく目にする公園やコンビニの駐車場

～くらしを守る 企業を守る 社会を守る～

レスキューツール LUKAS
Because you never get a second chance

EDローリック (第2世代) が 新登場!!

EDローリックの特徴

- スイッチオンで直ちに救助!
- 2電源方式! (Liイオンバッテリー、AC100V)
- 使用時間: 約1時間!

SP310E2 スプレッター

S311E2 カッター

SC250E2 コンビツール

電動油圧救助資機材

帝国繊維株式会社

【本社】〒103-0027 東京都中央区日本橋2-1-10 柳屋ビル7F
TEL:03-3281-3033 FAX:03-3274-6397 <http://www.teisen.co.jp>

Normeca Asia
SUPPLIER OF MEDICAL EQUIPMENT

日本で最初に災害・救急医療を導入!
「正しい教育」と「正しい装備」を提供します!

<http://www.normeca-asia.jp>

株式会社ノルメカエイシア 東京都台東区浅草橋3丁目19-3
TEL:03-5687-3899(代) FAX:03-5687-3911



▲側面には32インチのテレビが装着。
緊急時には、災害情報を映すことも可能。

公助が届く 発生12時間後まで 情報力の差が、命を救う

などを想定。平時から夜間照明をつけ、TVモニターで自治体からのインフォメーションを放送しておくことで、いざという時役立つものなのだと認識してもらおうと。

こうした明確なコンセプトをもつ、スマートで親しみやすいデザインを採用し、情報発信機能を強化した倉庫なのだ。

「日本の場合、災害が発生してから公助の手が届くまで、約12時間といわれます。ということ、その間、自助・共助の力で命を守ることができれば、被害はグンと減らせるはずなんです。」

かつての防災倉庫は大量の備蓄食料や水の備えでその使命を果たそうとしていました。しかしPCやスマホ、携帯の普及に

よって、情報の取得が容易になった近年では、情報力の差こそが緊急時に明暗を分けることになるとではないでしょうか」と、相原社長。地震や台風、鉄道事故など、トラブルのたびにさかんに情報や画像が飛び交い、一瞬のうちに共有・拡散される様子を見ても、この判断は確かだとうなずける。

「もうひとつ、レスQボックスがこだわっているのが、汎用性のあるもので作るということです。コンテナ本体もそうですが、発電パネルや充電機、バッテリー、さらに中に収納してある基本的な救助用品や工具は、すべてホームセンターで手に入ります。」

当社は技術力が勝負の企業ですから、その気になれば独自開発のハイレベルな設備を付加することもできます。しかしレスQボックスが真価を発揮するのは緊急時なので、操作も機能も出来るだけシンプルで、故障や破損時に容易に換えがきくものの方がいい。多機能・高機能よりも、誰もが簡単・確実に使えることが最優先なんです」。

なにを入れるか、 どう使うか 設置者が判断できる フレキシブルさ

かくして誕生したレスQボックスは、これまでにないユーザーフレンドリーな防災倉庫として好

評を博している。

同社の寄贈によって福生市の公園に設置された第1号ボックスには、帰宅困難者支援をテーマに、防寒具や非常用トイレなどが収納された。発電・充電・情報発信機能という基本装備以外には、設置場所ごとに異なるか、どう使うかを設置者判断で決めればよいというフレキシブルさも、レスQボックスの特徴だろう。

レスQボックスの、畳2畳というコンパクトさの中には、カタチのない情報と、命を救う大きな可

能性が詰まっている。

この有益性が広く認められ、多くのレスQボックスが設置されることで、同社がこめた地域貢献への想いもかなえられていくことだろう。

問い合わせ先

株式会社ハムロン・テック

ECO事業部

〒190-0122 東京都西多摩郡
瑞穂町箱根ヶ崎東松原2-24
TEL: 042-568-0181
FAX: 042-561-321
E-mail: rmyauchi@hamronetec.com
http://www.hamronetec.com

レスQ box 概要説明



Q 設置場所は?



Q 備蓄されるアイテムは?



【奨励備蓄品】

- 救助用品
 - ・メガホン
 - ・レスキュー工具セット
 - ・ヘルメット
 - ・安全手袋
 - ・簡易担架
 - ・消火器 など
- 医療品
 - ・救急用品
 - ・AED など
- 保存食
 - ・水
 - ・乾パン
 - ・流動栄養食
 - ・缶詰 など
- ケア用品
 - ・簡易トイレ
 - ・トイレセット
 - ・ワンタッチテント など
- 救護用品
 - ・簡易ベッド
 - ・毛布 など
- その他
 - ・発電機 など

危機管理とBCPの専門誌

リスク対策.com

The risk management magazine for companies & communities

継続は力なり。

危機管理に強くなるには、継続的に「学ぶ」ことが不可欠です。
ぜひ、組織で1冊定期購読を!



定価1700円+税 寄数月発行

リスク対策

検索

新建新聞社 リスク対策.com編集部

TEL.03-3556-5525 risk-t@shinkenpress.co.jp

MRI

Research Associates

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社

三菱総研グループの一員として、
総合的なサービスを提供します。

防災分野のサービス例

- ・災害をもたらす現象の解析支援
- ・防災計画・対策の検討支援
- ・災害による被害想定・作成支援
- ・対応・対策の検証支援
- ・上記を支える、ステークホルダー間のコミュニケーションの支援

こたえて、共に未来へ。

課題に「答え」、期待に「応え」で、
お客様と、社会とともに、成長してまいります。

東京都千代田区神田1-13-1

TEL:03-3518-8505 http://www.mri-ra.co.jp/

舞台は日本屈指の大都市・渋谷駅前！



「渋谷・鹿児島おはら祭」

に見る **リスク対策**

「渋谷・鹿児島おはら祭」は、毎年5月中旬の土日に、渋谷駅前で開催される大規模な舞踊イベントだ。

“連”と呼ばれる踊り手のチームが、華やかな衣裳に身を包み、鹿児島の郷土民謡「おはら節」や「鹿児島ハンヤ節」、

「渋谷音頭」に合わせて激しく練り踊るパレードは、観覧者を含めて30万人以上の動員を誇っている。

平時から日本屈指の賑わいを誇る渋谷駅前で開催される本イベントは、今年で18回目。多くの参加者・観覧者に、安全に祭りを楽しんでもらうため、どのような事前準備やリスク対策が行われているのかを、同祭実施本部長・幸福博氏に伺った。



全長1キロの沿道に詰めかける観客 組織だった安全対策が必要不可欠

新緑鮮やかな5月16日(土)・17日(日)、「第18回渋谷・鹿児島おはら祭」が、今年も盛況のうちに幕を閉じた。

両日とも夏を思わせる好天のもと、鹿児島の物産展や観光PRなどのテントが軒を連ね、大勢の買い物客で賑わった。

さらにメインイベントとなる日曜日の踊りパレードには、関東連・54連、鹿児島連・13連(踊り手合計約2600名)が参加。渋谷109前を交通止めにし、道玄坂から文化村通りまで約1キロにわたる会場の沿道には、大勢の観客が詰めかけた。「なにしろ日本最大の乗降客数を誇る渋谷の駅前を封鎖し

て行われるお祭りですから、観覧者だけでなく一般の通行人も多い。混乱が起きないように、交通整備や迂回案内などにはかなりのスタッフを準備しています。また、盗難やトラブルも防がなくてはならない。地元商店街や警察、警備会社80名、約1000名のボランティアスタッフとの連携が、とても大事になってきます」と語るのは、同祭実施本部長の幸福氏。

同祭では会場をA・B・Cの3つのゾーンに分けてチーム体制による安全活動を行っているほか、経験豊富なスタッフが本部席及び附近に常駐し、全会場を統括している。



好天のもとでの開催は 熱中症リスクとの戦い

「連の皆さんの晴れ舞台ですから、祭りの日はもちろん、晴れた方がいいです。でも、ゴールデンウィークが明けると東京は二気に夏らしくなるし、梅雨が近づいて湿度も高くなる。どれほど注意喚起しても、毎年若干は急病の方が出てしまうので、救護体制には特に気を使っていますね」。

今年も踊り手・参加者に数名、熱中症による急病人が出たが、速やかな救護によっていずれ

も軽い症状で済んだという報告が上がつている。

「祭りの当日は、毎年お願いしている地元の医師が本部脇の救護所に詰めており、いざという時の初期対応にあたっています。そこから、症状に応じて近隣の病院に搬送するなど、地域との連携体制で、安全な開催に努めています」という通り、毎年蓄積された運営ノウハウによって、参加者をリスクから守る取り組みがなされている。





スタッフの声を反映して 年々充実していく 実施ノウハウ

東京都内で開催される、こうしたビッグイベントでは、東京都福祉保健局が作成しているガイドライン（東京都が主催する大規模イベントにおける医療・救護ガイドライン※詳細は別枠参照）が、運営時の一定の基準となっている。

これに加えて、同祭の安心・安全レベル向上の大きなヒントとなっているのが、祭りの後に行われるスタッフによる反省会だ。ここでは当日運営に関わったスタッフの生の声から、気付いたことや改善すべき点を拾いあげた分厚い開催レポートを、平成10年の初開催時からずっと継続して作っている。



なぜ渋谷でおはら祭?

「渋谷・鹿児島おはら祭」 の由来

かつて渋谷一帯を所領としていた相模国の豪族・渋谷氏は、源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、源平合戦の功により、薩摩（今の薩摩川内市付近）に所領を得て、一族をあげて移住しました。

後年、渋谷氏が移り住んだ鹿児島では、秋祭りとして民謡・おはら節に合わせて踊る「おはら祭」が盛んになり、南九州最大の祭りと呼ばれるまでに発展しました。こうした先祖伝来の深いご縁を記念し、渋谷と鹿児島の交流を深めるため平成10年から始まったのが「渋谷・鹿児島おはら祭」です。



今年はずっととうちわや氷など、応急処置に使える備品を救護所に増量してほしいといった要求があったそうで、これらは来年度以降の開催に反映されていくことだろう。

平成10年に「渋谷・鹿児島おはら祭」が始まってから、これまでの間には、駅の改修や新線開通、大規模な商業施設の完成など、人の流れを変える変化がいくつもあつた。

日々進化する渋谷の街で、末永く安全で楽しいおはら祭を開催するため、ノウハウはしっかりと蓄積されていくのだ。

平成21年4月に定められた、都内での大規模イベント開催時の医療・救護計画作成の指針。

平常時の備えはもちろん、傷病者が多数発生した場合も想定して、運営担当機関の役割や医療・救護のために必要な組織・機材関連を記したガイドラインとして、都主催のイベントだけでなく、多くの大規模イベントの基準として活用されている。



東京都が主催する
大規模イベントにおける
医療・救護ガイドライン
とは



埼玉県川越市にある、(一社)埼玉県警備業協会には、県内を事業エリアとする273社が加盟している。

同会最大の使命は、会員企業が採用した警備員に対する、新任教育・現任教育。最大240

最新の知識・技能を備えた警備員を、日々輩出

2020年の東京五輪に向けて危惧されているさまざまな課題のひとつに、世界中から訪日する選手・観客の安全安心をいかに守るかという問題がある。警察や自衛隊といった官の動員・ボランティアスタッフだけではとうていまかなえないのは確実であり、となれば当然、警備業界に託される部分が大きいことも予想できるだろう。しかしながら、警備業界は今でさえ人材不足・人材育成の難しさに悩んでいる。こうした業界全体に関わる問題を、共同で解決すべく取り組んでいるのが各県の警備業協会だ。

今回は、全国屈指の規模と活動密度を誇る埼玉県警備業協会の取り組みを紹介する。

◆レポート◆

2020年に向けての警備業

埼玉の警備員育成を底支えしながら 抜本改革のための働きかけも積極的

彩の国さいたまの安全に奉仕する警備業

埼玉県警備業協会



名収容可能な研修室と屋内体育館、グラウンドを整備し、これまで2万3000人近い警備員が、この場所で最新の知識・技能の習得訓練といった警備員教育を受けてきた。

「当施設は2014年4月から、埼玉県警備業教育大学校という看板を掲げています。毎年春には会員企業の新人が集まって合同入社式を行い、県警幹部もご挨拶に来てくださっています。こういう組織は日本でも当会だけなのではないでしょうか。」

人材教育を「一社ごとに行うのは大変だ」との声も多く聞かれます。当会は警備業全般をとりまく状況や最新の情報を把握しています。ここ来れば、よりハイレベルな研修が可能だということでも、とてもたくさんのご利用をいただいています」と語るのは、同会の専務理事・吉岡光男氏だ。

若い人々が警備という仕事に魅力を感じるよう、業界改革を

精力的に活動している同会だが、だからこそ痛感する警備業界の問題もあるという。

「埼玉に限らず、警備業界は慢性的な人材不足。昨今、もともとラクで稼げる仕事がある中で警備員を志してもらうには、待遇改善が必要不可欠です。」

適正なコスト感覚をもつて、長く働き、キャリアアップを目指す警備業界に変えていくための働きかけも、併せて行っています。幸い関係団体との連携もとれていますから、ぜひこの取り組み



▲吉岡専務理事

を推し進めて、日本の警備業界改革のモデルになれたらと思いますね」という言葉の影には、5年後に迫った東京五輪への危機感がある。同会がある川越はゴルフ競技会場となることが予定されているのだ。

「広大なゴルフ場で大観衆。しかもそれがプレー中、集団で移動するので、警備の難しさは想像に難くないでしょう。こうした状況に対応できる人材確保・育成が喫緊の課題である以上、会員みんなで団結してより良い業界に訴えかけていかないと」。同会に会員企業が掛ける期待は大きく、責任もまた重い。

スキルとモラル、そして誇りをもって警備員が働ける未来のために

「安全・安心を守るという重大な任務にも関わらず、与えら

れる権限はないに等しく、警備員の装備も貧弱との指摘が会員の皆様から寄せられている。非常にリスクな仕事になってしまっている」と、吉岡氏。確かに、かつては考えられなかったようなテロや犯罪と、最前線で立ち向かうことになる警備員が守られないのでは、本末転倒というものでしょう。

「警備員は、誰でもなれるのではなく、当然ながら犯罪歴の有無等をはじめ、一定の審査をパスされた人だけがなれるのです。モラル的にも優れた人が、日々学び、鍛錬しながらする仕事なんです。それに見合う待遇を用意できれば、さらに誇りをもって働けるようになる。センターに受講しにくる人たちの熱意に、業界・社会としてもぜひ応えていかなくては」と、語る声には熱がこもっていた。

一般社団法人 埼玉県警備業協会

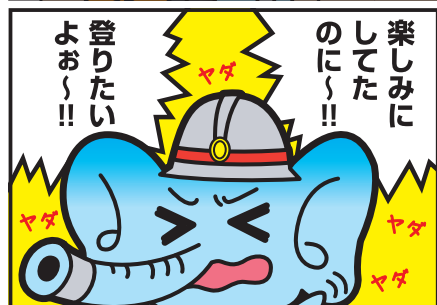
〒356-0016
川越市大字木野目1267番地1
TEL: 049-230-1128
FAX: 049-230-1138
<http://www.saikeiyo.or.jp>

主な業務

- 自主防犯、自主防災思想の普及、啓蒙
- 警備業務の適正化、技術向上に関する調査、研究
- 警備員等の教育訓練
- 大規模イベント等の共同受注、指導
- 関係行政機関・団体が行う防犯活動、交通安全運動等への参加・協力 など

4コマ劇場

噴火警戒レベルって知ってる?



obopedia Vol.5

噴火警戒レベルって?

火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表される指標です。

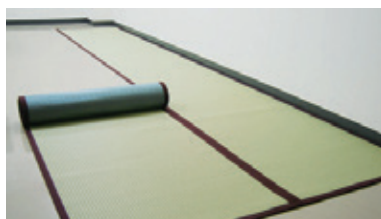
特別警戒	レベル5 居住地・火口側	避難
レベル4 居住地・火口側	避難準備	
警戒	レベル3 火口から居住地近く	入山規制
レベル2 火口周辺	火口周辺規制	
予報	レベル1 火口内等	活火山であることに留意

登山にでかける前などは、気象庁のホームページなどでチェックしてから出かけようね。

よい!ス「おぼえとこっ!」

INFORMATION SQUARE

ほっと安心。緊急災害用床材「美草ロール畳」



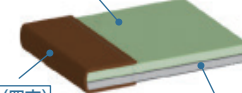
サイズ… 厚さ4.5mm×幅90cm×長さ5m

畳表「セキスイ 美草」

材質: ポリプロピレン、炭酸カルシウム、綿糸

お問い合わせ先

積水成型工業株式会社
東日本延伸営業所
TEL.03-6837-0303



畳縁(四方)

材質: ポリエステル

滑り止めクッション材

材質: 発泡ポリエチレン

緊急災害用床材「美草・ロール畳」。

積水成型工業(株)が開発したこの製品は、避難所をすばやく畳の空間にすることができ、きる優れモノ!

クッション性もあり、裏面の滑り止めが床面の「硬さ」や「冷たさ」をやわらげてくれます。

素材は、住宅で採用実績豊富な畳「美草」を使用。

日本アトピー協会推薦品承認も受けているので、小さなお子様にも安心ですね。くるくるつと巻いて専用収納袋に入られるので、携帯性にも優れています。

被災して小学校の体育館や公民館などで避難生活をされているシーンをニュース等によく見かけられるかと思いますが、フロアリングの上に直に座ったり、段ボールなどを敷いていたりしますが、身体は冷え、疲れも蓄積されています。

そんな状況を改善できる製品がありました。

積水成型工業株式会社

3.11 東北を忘れない...

Vol. 5

—東北エリアからのレポート—

震災は現在進行形と肝に銘じ、復興に向き合う姿を伝え続ける

震災から4年以上経ち、震災はどのように捉えられているのでしょうか。毎年3・11を過ぎると全国ニュースで取り上げられることも少なくなり、震災について思いを巡らすことも減っているかもしれません。

仙台・宮城では、仮設住宅から復興公営住宅へと住まいが移り変わり始めています。そのため、仮設住宅で出来た新しいコミュニティも世帯が減るにつれ体をなさなくなってきました。せっかく出来た人とのつながりを惜しんで仮設を離れたくないという方々もいます。

仙台は人口がとても流動的で、新しく住む人や、次世代の人たちへ、震災の体験をどのように残していくかが課題となっています。私が担当している番組では被災地の定点観測

をしている人や、かつてそこに存在していた街で人々がどんなふうに暮らしていたのかを垣間見ることが出来るツアーの話題などを取り上げています。

地元で暮らしていても普通の生活が元通りになっていると震災の爪痕や教訓を忘れがちです。これが被災地から遠く離れたところに住んでいる方々ならなおさらでしょう。取材で実際に被災された人や、震災の記録をアーカイブしている人に会うたびに、まだまだ震災は現在進行形なのだとなんか肝に銘じながら、これからも情報を発信していきたいと思います。

仙台シティエフエム「ラジオ3」フリーディレクター鈴木悦子



▲自ら取材した情報を、番組を通じて発信し続ける鈴木さん

第5回目は、
Jリーグの試合警備などでも
活躍中の、女性警備隊長の
登場です!



千葉英梨子さん／私は埼玉生まれの埼玉育ち。高校までずっと陸上競技に励んでおり、体力には自信があったことから、警察官を目指そうかと考えていました。

Q1 警備員という仕事に
就いたきっかけは?

数万のサポーターが集まるスタジアムや、大勢のお客様で賑わう巨大なショッピングモール。
警備スタッフの皆さんは、不特定多数の人々が楽しい一日を過ごせるよう、鋭い目と繊細な心配りで安全を守っています。
今回は、全国でも珍しい女性警備チーム・Zレディーズ隊を率いる隊長さんにお話を伺いました。

しかし就職活動中に参加した企業説明会で株式会社SPDセキュリアを知り、大好きな埼玉という地域に密着して、安心安全を守る取り組みをしていること、警備の世界で女性ガードマンの需要は今後さらに高まるだろうという将来のビジョンなどに共感し、入社を決めました。



千葉 英梨子さん

株式会社SPDセキュリア
埼玉スタジアムCity支社 課長補佐
警備員指導教育責任者1号業務・2号業務、
雑踏警備業務1級、交通誘導警備業務2級、
応急手当普及員

Q2 女性警備員としてどんな
活動をしていますか?
また、やりがい
を感じる時は?

最初は交通雑踏警備員として4年ほど勤務しました。一度

とはいえ、入ってみたい同期で女性ばかりです。先輩女性社員も内勤や事務の方がほとんどだったのですが、苦しいながらも初期教育なども丁寧に対応していただきましたし、とてもアットホームで働きやすい職場だと思います。

内勤に回って営業企画なども経験した後、2012年に、社内にはじわと増えてきた女性警備員によるチーム「Zレディーズ隊」を結成することになり、その隊長を任されることになりました。

「Zレディーズ隊」というのは、女性による最高の警備隊になろう、という想いをこめたネーミングです。現在メンバーは15名で、主に埼玉スタジアム2002やショッピングモールなどで開催されるイベントの警備を担当しています。
やはり女性警備員はまだ珍しいですし、真っ赤なユニフォームが目立つのもあって、よくお客様から声をかけていただけるように



Q3 警備の仕事の中で、
女性の感性が
活かされていると思う
シーンはどこですか?

なりました。地域の方とふれあい、ありがとうと言っていただけ仕事というの、やはり充実していますね。

Q4 今後の目標は?

個人としてのスキル向上はもちろんですが、それ以外ですと、ひとつのイベントをZレディーズ隊だけで警備するような案件を手掛けてみたいです。

お店のオープン時やイベントなど、華やかな場への出勤依頼が多いので、場の空気を感じ取って、爽やかできめ細やかな対応を心がけています。
ショッピングモールなどはご家族連れや女性のお客様が多いですし、トイレやバックヤードなど、女性警備員の方が立ち入りやすい場所もたくさんあります。実際、商業施設からの依頼では、必ず女性警備員を、というオーダーが増えており、警備業界内での女性需要の高まりを実感しています。



現在でも、事前に企画書や図面を見ながら当日の警備計画を立てているのですが、こうしたプランニングから実施まですべてを女性チームでやってみたいんです。

ちょっとハードルが高く見えるかもしれませんが、女性らしい感性や現場経験がスキルアップにつながる、手応えのある仕事です。警備員を志す女性を増やし、警備業界での女性の存在価値を高めるためにも、お揃いの真っ赤なユニフォームで活動する姿を、たくさんの方にPRしていきたいです。

株式会社
SPDセキュリア

〒330-0061
埼玉県さいたま市浦和区
常盤5-17-5
TEL: 048-834-0005
FAX: 048-834-3274
<http://www.spd-security.com/>

編集後記

災害先進国と言われている日本は、過去の様々な災害に対して「振り返り」を行い一つ一つ課題を解決してきました。温暖化などの影響で新たな課題も出てきていますが、「振り返り」とは、防災だけに限らず我々の普段の業務にも共通することではないでしょうか?

成功失敗に関わらず「振り返り」は、とても重要な事です。

編集員／佐々木 剛夫

おぼえとこっ! Vol.05 2015年9月発行
編集・発行／TSP太陽株式会社
〒153-0043 東京都目黒区東山1-17-16
TEL: 03-3719-3357 <http://www.tsp-taiyo.co.jp/>
協力／京都大学防災研究所
株式会社ハムロン・テック
渋谷・鹿児島おはら祭実行委員会
一般社団法人埼玉県警備業協会
株式会社SPDセキュリア
制作／「おぼえとこっ!」編集委員会

記事に関するご意見、
ご感想、取材の申込は
こちらのQRコードを
読み込んで、お送りく
ださい。

